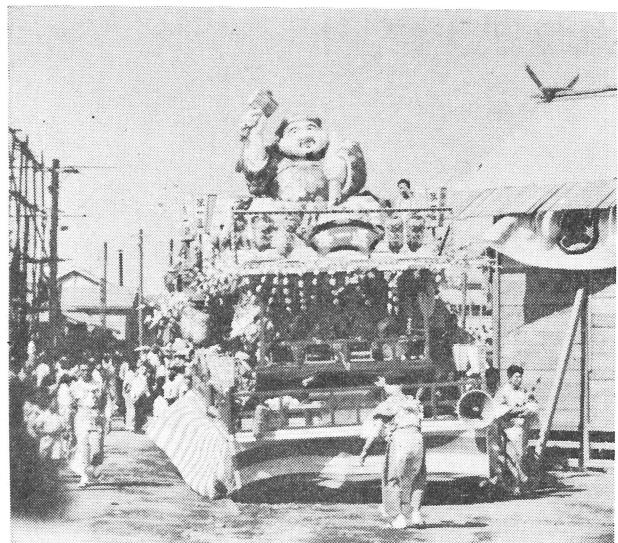


地方だより 根室測候所



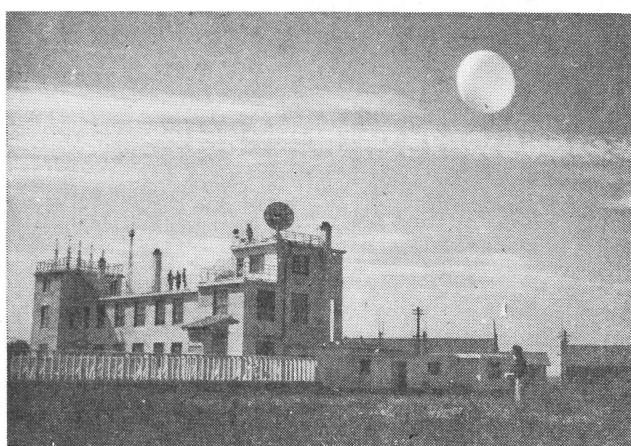
8月9日の夏祭り

～根室音頭で一おこし…新根室音頭の建設譜である。列車にて根室駅に到着すればソ聯領の島々も望見され国境の気配が漸くただよってくる。しかしこゝには大きな夢が描がっているのだ。根室港、花咲港が複雑な国際情勢をはらみながらも各種の漁業基地として重視されていることは衆知のことであろう。更に根室北西方に拡がる根室原野は最近漸く集

団農業方式 (pilot farm) の導入が始まり内地の二県大の未開発地が脚光を浴びようとしている。また謎の知床半島にも今夏調査隊の噂を聞いた。これらの芽はやがて花咲き実るであろう。そしてそのプロセスにおいては気象人の活躍が期待されることは勿論である。さてこれらの展望を巨視しつつ我が根室測候所は毎時、高戸、地震観測によって特微づけられやがて高感度地震計設置の話もあり、観測センターとしての重要性は益々増加している。仕事は決して楽ではないが上昇期の国家の如く根室も若いとい



冬の根室港



ゾンデ気球放球の寸前

い得よう。酷熱皆無、日本一の秋、冬の良さは又知る人ぞ知ろう。問題の霧はむしろロマンチックですらある。根室は人を待っている。真に気象事業を愛する人々こそ根室に来らんことを！

(野口幹夫記、松崎武四郎撮影)